

No.023 三和運輸機工株 【輸送モード:トラック】

「デジタコ管理と管理者指導で、安全運転と省燃費運転の促進に効果をあげる」

1. 概要

企業情報

所在地	神奈川県川崎市川崎区藤崎 3 - 5 - 1 トークピア川崎		創立	1984 年	
年商	37 億円	人員数	129 名 (内 正社員 105 名)	資本金	1,500 万円
拠点数	14 拠点	車両等	97 両 (自社 73、子会社 24)		
事業内容	一般貨物自動車運送業、自動車運送取扱業、倉庫業、産業廃棄物収集運搬業 保険代理業務、人材派遣業				
輸送品目	一般鋼材、特殊鋼、ステンレス鋼材、コイル、厚板、薄板、水道管、シートパ イル、覆工板				
取引先	JFE 物流、JFE 環境、岡谷マート、明道メタル、三星金属工業、住友金属物流、 日本通運、ヒロセ、日本金属工業、スチール、藤田金属、淀川海運他				

組織的安全マネジメントの特長

付き合いのあった自動車メーカーの担当者や社内の優秀な運転者の中から、安全対策に従事する人材を登用、キーマンとして添乗指導等の安全管理業務に当たっている。

デジタルタコグラフのデータを評価・得点化し、運転者に対する安全運転指導や省燃費運転奨励制度の運用に活用することで、事故が減少している。

2004 年に ISO9001:2000 を取得し、年二回のマネジメントレビューでは労働災害、自動車事故、誤出荷、省燃費運転等を検証して次期計画に活かしている。

調査者所見

安全には厳しい鉄鋼メーカーとの取引の中で、元来安全管理に関するノウハウは有しているが、取扱製品が重量物であることから、荷崩れや車両の不具合による自動車事故、吊荷落下による重大労働災害と、発生した時の損失の大きさは他のトラック事業者よりも大きく、社会的影響も大きいのでより厳しい安全管理を行っている。

対面指導や添乗指導の徹底など、熱心かつ継続的な取り組みの推進には、トップ・役員はもとより、安全対策に従事するキーマン（担当部長）の存在が欠かせないと感じた。また、新たな荷主の獲得、マネジメントの充実を通じて、安全対策も含めた会社の将来ビジョンを描き、次世代への準備も着実に進められているのではと感じた。

調査情報

調査日	2009 年 6 月 22 日	訪問先	本社・川崎支店
対応者	取締役社長室長兼新潟支店長、企画安全部執行役員部長		

(注) 企業情報等の内容は調査日を基準日とした内容である

## 2. 会社の概要、創業からの成長経過

日本金属工業㈱の専属業者である三和運輸㈱から長距離輸送、機工部を分離独立して、昭和 59 年 9 月に設立創業した。以来、一貫して鉄鋼物流に特化してきた。

創業当時、重量物輸送は積載品等に関する法的規制が厳しく、帰り荷があっても限定品積載のために空車で帰るケースが多く、鋼材に特化した会社は経営的にも厳しかった時代である。しかし、現社長が三和運輸㈱時代に関係した新潟県燕・三条地区を熟知し、同地区の鋼材メーカーとの深い関わりがあったことから、同地区から首都圏へ向けた帰り荷の確保が出来、往復輸送が可能となり積載効率も上がり、経営も安定した。創業翌年には新潟営業所を開設し、逆転の発想で発地を川崎から新潟に換えることにより、人件費、用地費用等の経営コストの低減を図った。本社が首都圏にありながら、鋼材使用量の多い新潟地区に着目し、拠点を設けるという先見の明もあり、このような攻めの経営姿勢が成長の礎を築いたと言える。現在でも新潟支店は川崎支店（本社営業所）より規模が大きい。

平成元年に三条物流センターを立ち上げると同時に荷主開拓に重点を移し、専門鉄鋼運送業者の空白地域での足場を確保した。また、バブル崩壊後の荷主のコストダウンへの要求に対して、鉄鋼物流に特化したノウハウを活かした提案営業で、大手物流会社幹旋による下請運送から、該社による輸送への変更に至った事例もある。その後も、営業拡大に伴って、東北、鹿嶋、千葉白井、静岡と鋼材物流センターを開設し、情報ネットワークの構築を図る一方、平成 16 年 8 月には ISO9001 : 2000 認証を取得して高品質の輸送を目指している。

製品輸送だけでなく、高炉メーカーが燃料として再利用する廃プラスチックの輸送を行うために、神奈川県をはじめ川崎市、横浜市、愛知県、名古屋市で、産業廃棄物収集運搬業の許可を取得して社会貢献を図っている。

安全に対する取り組みに関しては、元来、安全には厳しい鉄鋼メーカーが主体的に指導する安全管理を行っていた。7~8 年前から、荷主や世間一般の安全への要請の高まりを受けて、鉄鋼メーカーとの付き合いの中で培ったノウハウを基盤として、独自の本格的な安全管理を始めた。

安全かつ高品質な輸送を目指し、前述の通り、平成 16 年 8 月には ISO9001:2000 認証を取得した。また、平成 18 年にはデジタコを導入し、以後、デジタコを活用した運転者に対する教育を実施している。これらの取り組みの成果として、平成 16 年以降の事故件数は減少傾向を示すようになった。

### 3. トップの考え方

長年にわたり鉄と関わってきた社長は、鉄の社会的位置付けや特性を理解し、社会基盤の重要性に基づく社訓「人と人、企業と企業を結ぶ架け橋をめざしています。」を掲げている。一方、経営理念は「わが社は社員から、お客様から、世間の人から良い会社と言われるように努める。」である。鉄鋼輸送は扱う製品が重量品で、作業の一つひとつが大惨事に結びつくリスクがある事を熟知した者の言葉であり、人間味に溢れた理念である。また、「従業員は家族だ」との考えに基づき、現場の安全会議に積極的に参加し、従業員とのコミュニケーションを図る一方、レクリエーション等、各種福利厚生の実施にも努めている。

社長は業界全体の発展にも寄与したいと考えている。緩和が進んでいるが、まだまだ積載制限等の法的規制が厳しく、食品物流と比べて遅れ気味の鉄鋼物流をレベルアップすべく、鉄鋼商社との提携による小口物流サービスの販売行など鉄鋼物流の発展に努めている。

□経営の理念等についてはホームページに記載 <http://www.sanwaunyukikou.co.jp/>

#### 4. 組織的安全マネジメントへの取り組み

##### A) トップのコミットメントと行動

ポイント	CL 項目※
◆本社は管理部門だけであるが、朝礼には現場で出席しており、出来る限り現場に出向くようにしている。	A 1、B 4 B 5
◆「従業員は家族である」との考えで、講習会費用や旅行は全額負担していた。現在は縮小したとはいえ、一人あたり相当な福利厚生費を拠出している。	A 1、A 2 B 1
◆月給制で、賞与は評価によって決めて支払っている。また、無事故手当（毎月支給）と省燃費運転報奨制度の報奨金（半年ごと）がある。	A 3、C 2 C 3

※CL項目とは、組織的安全マネジメントチェックリストの項目である。項目の内容については「7. 組織的安全マネジメント チェックリスト自己評価結果」参照。

- ・以前は講習会費用や社員旅行費用を全額会社負担としていたが、今は家族や専属備車先が参加するレクリエーションは全額会社負担で、野球、ゴルフ等のクラブ活動費用の半額を負担している。年間一人当たりの福利厚生費も高額である。
- ・給与体系は月給制で、評価によって賞与に反映している。なお、無事故手当は毎月支給している。
- ・省燃費運転報奨制度として、一定の燃費基準を達成した運転者に報奨金を半年ごとに支給しているが、元自動車メーカーに在籍していた企画安全部長が車種、積載率による燃費の補正値を設けて平等に判定するシステムにしている。

##### B) マネジメントシステム

ポイント	CL 項目
◆平成 16 年に ISO9001:2000 を取得し、年二回のマネジメントレビューでは労働災害、自動車事故、誤出荷、省燃費運転等を検証して次期計画に活かしている。	B 2、B 3 D 1、D 2
◆デジタルタコグラフを装着し、スピード、省燃費運転等をチェックしている。同データに基づく指導を行い、指摘事項を日報に記載して運転者が確認後に署名する。	B 2、B 6 C 2、C 3 D 8
◆荷主と共同パトロールを定例実施するとともに、安全点検やデジタルタコグラフ管理を通じて、自社及び備車の品質向上を図っている。	B 3、B 7 C 4

##### 【人事・マネジメント関連について】

- ・運転者の平均年齢は 43～44 歳であり、同業他社と比較して待遇が良く、仕事内容が決まっていますので働きやすいので定着率 95%超とよい。
- ・企画安全部執行役員部長は自動車メーカーでの経験を活かして、安全情報のデータベース化（事故種別、年度、支店、ドライバー毎にデータ把握）及び車両購入時の決済方法

決定を行う等、該社の安全を含めたマネジメントを実施するに当たり、貴重な人材である。

- ・グループ会社の三和トランス(株)は運送業務以外に、三和運輸機工(株)に運転者の派遣を行っている。賃金体系は異なるが教育、安全会議等は同じ内容で一緒に実施している。
- ・運送業務の50%以上は備車で行っているが、専属備車に対してはデジタルタコグラフの管理状況をチェックし、必要に応じて添乗指導を行っている。

**【安全に関する費用について】**

- ・毎月の高額な無事故手当、半年ごとの省燃費報奨金等から推定しても、数百万単位であると思われる。

**C) 教育訓練制度**

ポイント	CL項目
◆安全担当部長や物流部長がキーマンとなり、対面指導や添乗指導等の運転者への安全教育に当たっている。	C1、C2 B4
◆安全担当部長の繰り返し行う教育を通して、指導内容の徹底と教育量の拡大を図っている。	C2、D4

**【採用・新人研修関連について】**

- ・ここ3~4年は、若年者を優先的に採用している。取扱品が長尺重量物なので決まり事や遵守事項が多くて覚えて一人前になるまで時間が掛かる。
- ・新入社員教育は3ヶ月位である。内容は企業理念・品質方針等から同乗指導までの多方面に亘るが、中でも特徴的な教育として、ISO教育訓練、JFEスチール制定教育指導を行っている。
- ・(独)自動車事故対策機構主催の一般講習に選任運行管理者、同補助者を参加させている。

**【乗務員の研修等について】**

- ・平成12年頃より、本格的に社員教育、運転者教育を行うが、営業所において濃淡がある。また、運行管理者は安全日報に基づく対面による指導教育を実施している。
- ・新潟支店では、元運転者の支店次長が熱心に指導教育を行っている。特に事故惹起者については添乗指導を実施している。
- ・事故惹起者への添乗指導は、支店次長(元運転手)が行っている。添乗指導は、今後、全運転者を対象としていく予定である。
- ・安全担当部長が安全会議開催時に、次の項目について反復教育を実施している。

- トラックを運転する心構え
- トラックの構造上の特性
- 貨物の正しい積載方法

適切な運行経路と道路状況  
 危険予知及び回避  
 健康管理の重要性

#### D) 現場管理

ポイント	CL 項目
◆デジタルタコグラフ管理が主体であり、「安全運転評価」「経済運転評価」を合算して総合評価して、日々の指導に活用している。	D 5、A 3 C 2
◆荷主との共同パトロールが定例化しており、異業種の観点からのチェックは内部チェックより厳しく安全向上に役立っている。	D 1、B 7 C 2
◆どんな小さな事故でも、当日中にFAXで本社に報告させ、それを各営業所にフィードバックすることとしている。	D 7、B 3 C 3

##### 【日常業務等について】

- ・デジタルタコグラフ管理を主体にしている。日々の安全日報に「安全運転評価」「経済運転評価」の2つの評価を合算した総合評価がプリントアウトされる。
- ・評価は減点方式である。また、両評価点数の直前6回の履歴が同時に記載されており、運転者自身が活用することで欠点を補える。
- ・安全日報の評価に基づいて、運行管理者は終業点呼で対面指導をして、それを受けて運転者本人が署名確認している。
- ・川崎支店では終業点呼後に、KYトレーニング等を実施している。
- ・どんな小さな事故（車両事故（単独、対物等を含む）、労災、荷物事故など）でも、当日中に事故報告書を本社にFAXさせ、それを各営業所にフィードバックすることとしている。

##### 【小集団活動について】

- ・以前は全体で会議、教育を行っていたが、7～8年前の本格的な安全活動の開始を契機に、小集団活動に組み替えている。
- ・類災事故防止検討会は、小集団で実施している。

##### 【情報の活用、会議等について】

- ・2ヶ月に1回、営業所毎に全従業員が参加して「安全会議」を開催している。事故の現況や事故対策について情報交換と情報の共有化を図っている。
- ・類災防止検討会を各営業所で実施している。自社運転者とグループ会社運転者と合同で作業手順書に基づいた検討を行う。
- ・新潟支店では毎日安全ミーティングを行っている。

## 5. 顧客や取引先との関係

鉄鋼メーカーの安全管理は厳しく、事故情報は共有化している。構内安全パトロールは相互でチェックし、指摘事項は同業者が集まった会議で改善報告している。

現在、神奈川県内には鉄鋼物流に特化した同業者が数社しかなく、専門性の強みや、自社の安全管理への徹底した姿勢が、顧客からの信頼につながっている。

## 6. 安全に関する実績データ

### 【交通事故発生率】

どんな小さな事故でも本社に報告する決まりである。本社ではデータベース化して、事故内容別に分類している。以前は、軽微な事故は隠していたが、現在では、赤チン災害も含めた全ての労災・事故をオープンにしている。

以下は、交通事故発生件数であるが、道路上の自動車事故の統計で、荷主庭先での事故や単独での物損事故は除いてある。

年度	交通事故件数(件)	走行距離:約(km)	交通事故発生率(件/10万km)
平成20年度	6	4,242,221	0.14
平成19年度	12	4,188,757	0.29
平成18年度	8	4,071,785	0.20

計算式：事故件数÷走行距離×10万km

今期（期間：平成20年9月～21年8月）は調査日の時点で5件と昨期より減少しているが、前年度の目標件数に未達成の営業所は、安全会議の開催回数を2倍にして意識改革に努めている。また、抜き打ちで走行速度をチェックしている。これらの施策と乗務員指導を義務付けた効果が出ていると思われる。なお、交通事故件数に単独による物損事故と構内・現場での事故を合算すると平成18年度から20年度の3ケ年間は増加したが、未達成の営業所に対する施策が浸透し、今年度は昨年度の半数で推移している。しかしながら、相変わらず荷主庭先でのバック時に起こす事故が多く、事故惹起者は限定されている。

## 7. 組織的安全マネジメント チェックリスト自己評価結果

区分		項目		評価
A	トップのコミットメントと行動	A 1	行動見本（現場巡回）	イ
		A 2	経費予算配分	イ
		A 3	賞罰制度	イ
B	マネジメントシステム	B 1	理念・行動指針	イ
		B 2	マネジメントサイクル	イ
		B 3	情報管理のしくみ（安全の実績・情報）	ア
		B 4	人員配置と異動	イ
		B 5	管理者育成	ウ
		B 6	協力業者管理（関連会社等）	ウ
		B 7	お客様の評価	ウ
C	教育訓練制度	C 1	採用・新人教育	ウ
		C 2	運転スキル、作業スキル訓練	イ
		C 3	事故分析、再発防止教育	ウ
		C 4	KYT、ヒヤリハット	ウ
		C 5	小集団活動（班活動）	イ
D	現場管理	D 1	ルールの順守	イ
		D 2	日常点検・整備	ウ
		D 3	整理、整頓、洗車、清掃	イ
		D 4	現場巡回指導（街頭指導）	ウ
		D 5	点呼・朝礼	イ
		D 6	身だしなみ、服装	イ
		D 7	挨拶、返事、報告	イ
		D 8	時間管理、生活管理	イ
		D 9	協力意識	イ

※組織的安全マネジメントのチェックリスト（詳細）は、国土交通政策研究所のホームページから入手可能。検索エンジンで「国土交通政策研究所」と入力。“●研究会・アドバイザー会議等”のページにある“運輸企業のための組織的安全マネジメント手法に関する調査”「第3回アドバイザー会議資料（平成21年3月17日）資料3」の郵送調査票参照。





写真1  
川崎支店掲示物



写真2  
アルコール検知器



写真3  
安全カレンダーとデジタルタググラフデータ読取器



写真4  
運輸安全マネジメントの掲示

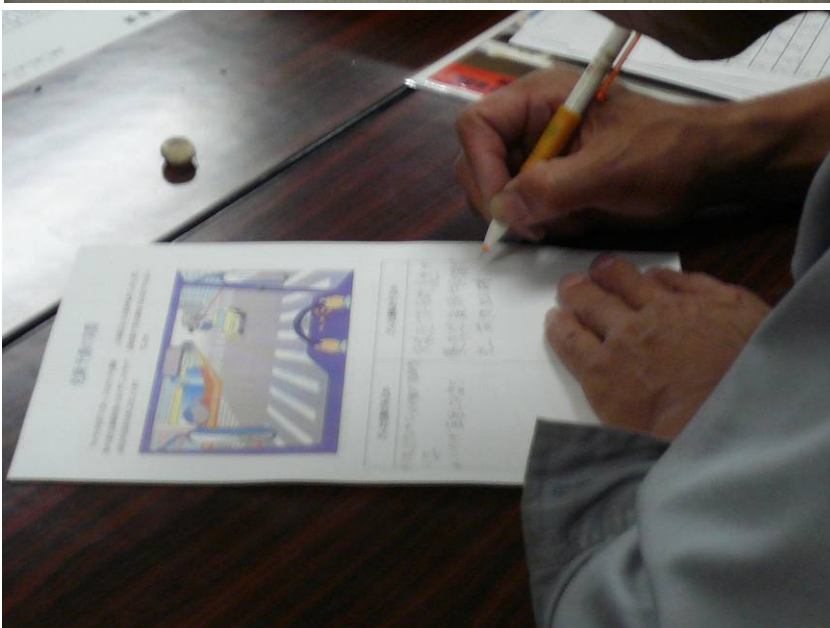


写真5  
KY 訓練（終業点呼後）

TYPE B-4  
印刷 2009/08/10 08:30  
通行監視者

注意・指導事項  
1 視速度の検守 (安全逆戻処理)  
2 アイドリングストップの検守  
3 検出運転の検止  
4 運転運転4時間以内 (休憩30分以内)  
5 安全運転に努め下さい。

安全日報

新潟支店

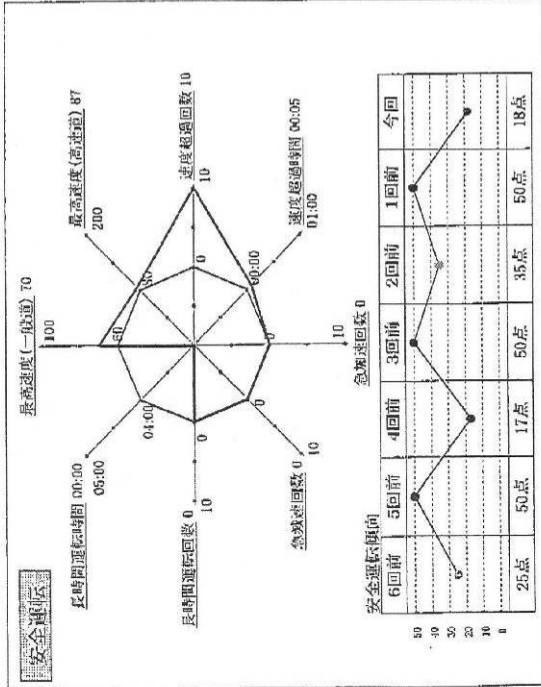
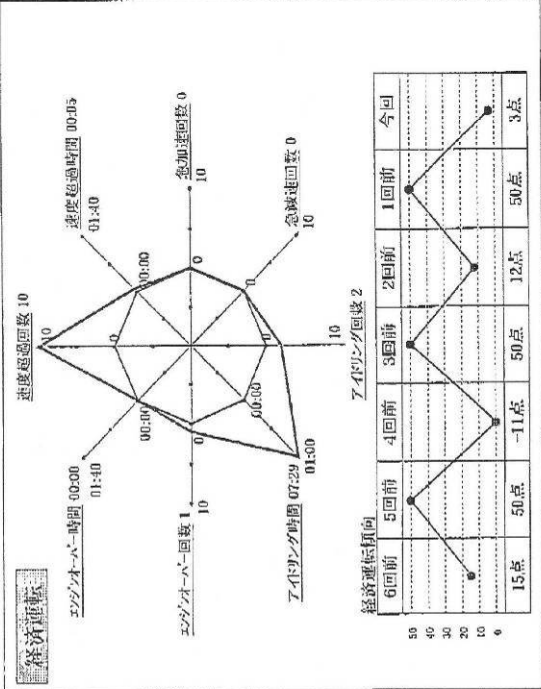
三和運輸機工株式会社  
運行日付: 2009/08/08 19:41 ID-32310

乗務員名: [ ] (00000039)  
同乗者名: [ ] (00007685)  
車回名称: [ ]

始業時刻: 08/08 19:41 39545.2km  
終業時刻: 08/10 08:35 40271.7km  
稼働時間: 34:54  
乗車状態: 27:22 858.1km  
空車状態: 7:31 70.3km  
走行距離: 17:40 726.4km

あなたは、安全運転評価において、下記の成績となりました。もう一度、自分の運転を

項目	最高速度(km/h)		速度超過		急加速		急減速		アイドリング		エンジン		評価
	回数	時間	回数	時間	回数	時間	回数	時間	回数	時間	回数	時間	
最大値	70	-	87	-	-	4:53	-	0:00	-	-	-	0:00	E
違反回数	-	-	-	-	10	0:05	0	0:00	2	7:29	0	0:00	得点
安全運転評価	10	-	7	-	10	5	0	0	-	0	0	-	18点
最終運転評価	-	-	-	-	10	5	0	0	2	2:29	-	0	3点



帳票類 2 : 安全パトロール実施記録 (共同パトロール) 1/2 頁

管理番号 NI-Y24-012

第13回安全パトロール実施記録

実施日時 平成20年8月26日 (火) 午前10時45分～12時00分  
実施場所 三星金属工業株式会社様構内  
実施者 (三星様) (三和) (三和) (三和)  
対象車両 26台  
違反件数 6件  
違反内容 ○スタンション内に物入れ  
三和運輸機工 67-60  
三駿運輸 21  
三駿運輸 41-46  
三和運輸機工 44-07  
○作業服違反(長袖肌着)  
三和トランス 52-51  
○倉庫内、許可を貰わずに進入。  
三和トランス 52-51

三星様より:

- ①シートベルトの装着は良くなった。
- ②工場内の丸棒のはい山に渡し板を試験的に設置したので移動時は飛び越える事無く、私板を使用する事。
- ③構内の一旦停止の標識があるところは必ず、止まる事。
- ④先日、リモコンクレーンで担当者が離れる際に、規則を守らずリモコンを持ったまま水を飲むため屈んだ際に、冷水器にリモコンのスイッチが触れ工場内のクレーンが動きだすという重大なヒヤリハットが発生した。  
※クレーン操作ボタンは使用しないときは必ずOFFにする。

総評: 暑くなり服装の乱れが発生した。最小限の決まり事を守れず良い仕事が出来ず社員は勿論の事、協力会社の運転者にも徹底させる。

工場内、倉庫内に入場する際は必ず、倉庫担当者に許可を取り誘導して頂く。

先月に続き今月もスタンション内に物を入れ作業を行なっている人がいた。何故悪いのかを今一度、解説し徹底させる。



スターション内の  
パール差込を指摘



はい山移動時の  
渡し板

クロージングミーティング  
の様子



### 類災防止検討会実施報告書

承認	転記	保管
品質管理責任者	担当者	

作成者 : \_\_\_\_\_  
 作成日 : \_\_\_\_\_

教育・訓練名	NI-Y25-003 駐車する際の駐車ブレーキと歯止めの使用。	
区分 (該当に○)	○安全・衛生	品質 (資格取得を含む)
実施年月日	平成21年1月24日	
開催場所	三和運輸機工株式会社 新潟支店	
講師名		
教育・訓練内容 (概要を記載。必要に応じて詳細講事録を添付する) 傾斜のある場所でブレーキの掛け忘れにより車両が動き出し、壁と車両に挟まれ負傷。		
備考 (使用テキスト等教材を明記) 作業手順書 1-06-01-02		


受講者氏名

所属 (又は支店)	氏 名	所属 (又は支店)	氏 名
三和トランス		三和トランス	
三和運輸機工		三和トランス	
三和トランス		三和運輸機工	
三和運輸機工		三和トランス	
三和トランス		三和トランス	
三和トランス		三和運輸機工	
三和トランス		三和トランス	
三和運輸機工		三和トランス	
三和運輸機工		三和運輸機工	
三和トランス		三和トランス	
三和トランス		三和運輸機工	
三和トランス		三和トランス	
三和トランス		三和トランス	
三和運輸機工		三和トランス	

効果の確認	
確認日: 年 月 日	

# 作業基準書

基準書番号	1 - 06 - 01 - 02		東日本運輸(株)
単位作業	単位作業	実務者	保護員
車輛駐車	駐車ブレーキ・前輪輸止め	運転手	安全服装
駐車ブレーキ基準			班 長
1. 車輛を駐車する場合は駐車ブレーキを必ず掛ける			作業長
2. 運転席を離れる場合はエンジンを停止しエンジンキーを抜く			安 専
3. 車輛の廻りから離れる場合ドアーに施錠する			課 長
			部 長
輸止め基準適用範囲			輸止め(三角ストッパー)
1. 東日本運輸(株)の作業を行う作業車(乗用車を除く)に適用する			
2. 車輛から降りる場合は必ず輸止めを実施する			
3. 荷の積卸し中、固縛シート掛け輸止めをする			
輸止め基準			
1. 輸止めは運転側の最前輪の前後に取り付ける			
2. 輸止めは、高さ100mm幅100mm以上の楔形の物とする			
3. 輸止めには紐を付け紐の先端をドアノブ等に掛けて、外し忘れを防止する			
駐車場所			
1. 道路交通法で禁止された場所、私有地では所有者が禁止した場所以外の			



2004年3月の安全会議で各社協議し基準化を決定	
作成/改訂	年月日
	作成者
2004年4月8日制定	
2009年1月車輛逸走事故発生により改定	

帳票類6：新入社員教育プログラム

新入社員教育(本社営業所用)



	内 容	担 当	資 料	時 間
1	「企業理念」・「品質方針」・「行動指針」 「運転者の心得」 ISO教育訓練(作業手順書)	支店長・部長		1時間
2	トラックの安全な運転に関する基本的事項 貨物自動車運送事業法その他の法令に基づき運転者が厳守すべき事項及び交通ルール等を理化学せると共に、トラックを安全に運転する為の基本的な心構えを習得させる。	運行管理者	指導実践マニュアル P16～P19	1時間
3	トラックの構造上の特性と日常点検の方法 トラックの基本的な構造及び装置の概要及び車高・視野・死角及び内輪差等の他の車両との差異を理解させると共に、日常点検の方法を指導する。	整備管理者	指導実践マニュアル P20～P23 P56～P57	30分
			実技指導	1時間
4	交通事故を防止する為に留意すべき事項 貨物自動車運送事業者の事業の態様及び運転者の常務の状況等に応じてトラックの運行の安全を確保する為に留意すべき事項を指導する。	運行管理者	指導実践マニュアル P24～P30	2時間
5	危険の予測及び回避 道路及び交通の状況の中に含まれる交通事故につながるおそれのある主な危険を理解させると共に、それを回避する為の運転方法等を指導する。	運行管理者	指導実践マニュアル P31～P45	2時間
6	ビデオ鑑賞 トラックの安全運転  夜間ハイビーム運転		全日本 トラック協会	18分
			住友金属物流	15分
7	安全運転の実技 実際にトラックを運転させ、道路及び交通の状況に応じた安全な運転方法を添乗により指導する。  添乗コース	運行管理者		30分
8	その他 注意事項  【正しい運転操作】 【05.5.19安全運行基準】 【作業指示：JFEスチール厳守事項】 【3ない運動】 落ちない・落とさない・ぶつけない 【構内安全運転規則】 【指差呼称実施の再徹底願い】 【アルコール飲料缶類等持込み禁止】 【固縛に関する禁止事項】  【ドライバーの皆さんへ】	配車担当者	JFEスチール	45分
			三和運輸機工	15分

※2. 3. 4. は初任運転者は必修。  
※8. はJFEスチール入場車両(長距離運転者)は必修。



## 添乗運転指導記録

判定:  合 ・ 否



三和運輸機工株式会社 本社営業所

品質管理責任者	部長	運行管理者

運転者名		年齢	33歳	経験年数	6年	実施回数	1回目
運転車両	4t	出発地		車庫		指導員	
添乗区間	添乗コース(本社営業所用)				実施日	H19.5.8	

項目	安全確認	指摘事項	良・否
乗車・発進	<input type="checkbox"/> しない <input type="checkbox"/> タイミング <input type="checkbox"/> 確認範囲	<input type="checkbox"/> 後方確認後乗車 <input type="checkbox"/> 逆行 <input type="checkbox"/> ギヤ不適切 <input type="checkbox"/> 乗車姿勢 <input type="checkbox"/> シートベルト <input type="checkbox"/> 合図	(良)・否
加速・制動		<input type="checkbox"/> 急加速急減速 <input type="checkbox"/> 制動不円滑 <input checked="" type="checkbox"/> 制動タイミング <input type="checkbox"/> 安全速度 <input type="checkbox"/> 車間距離(追従・停止)	(良)・否
進路変更	<input type="checkbox"/> しない <input type="checkbox"/> タイミング <input type="checkbox"/> 確認範囲	<input type="checkbox"/> 合図(しない・遅い) <input type="checkbox"/> 変更(しない・遅い) <input checked="" type="checkbox"/> 中央への寄りが遅い	(良)・否
交差点 通過方法	<input type="checkbox"/> しない <input type="checkbox"/> タイミング <input type="checkbox"/> 確認範囲	<input type="checkbox"/> 合図 <input type="checkbox"/> 安全速度 <input type="checkbox"/> 徐行 <input type="checkbox"/> 左大回り <input type="checkbox"/> 左折時右振り <input type="checkbox"/> 右折小回り <input type="checkbox"/> 停止位置	(良)・否
一時停止	<input type="checkbox"/> しない <input type="checkbox"/> タイミング <input type="checkbox"/> 確認範囲	<input type="checkbox"/> しない <input type="checkbox"/> 停止不完全 <input type="checkbox"/> 停止位置(手前) <input type="checkbox"/> 二段階停止(しない・流れる)	(良)・否
高速道(首都高)	<input type="checkbox"/> しない <input type="checkbox"/> タイミング <input type="checkbox"/> 確認範囲	<input type="checkbox"/> 走行速度 <input type="checkbox"/> 車間距離 <input type="checkbox"/> 波状運転 <input type="checkbox"/> 導入車両への配慮 <input type="checkbox"/> 走行車線	未実施
後退	<input type="checkbox"/> しない <input type="checkbox"/> タイミング <input type="checkbox"/> 確認範囲	<input checked="" type="checkbox"/> 下車後方確認 <input type="checkbox"/> ミラー確認 <input type="checkbox"/> 速度 <input type="checkbox"/> 車体感覚不良 <input type="checkbox"/> ハザード <input type="checkbox"/> ハンドル操作	(良)・否
ハンドル操作		<input type="checkbox"/> ふらつき <input type="checkbox"/> ハンドル保持 <input type="checkbox"/> 急ハンドル <input type="checkbox"/> 片手ハンドル <input type="checkbox"/> 操作不良	(良)・否
駐車・降車	<input type="checkbox"/> しない <input type="checkbox"/> タイミング <input type="checkbox"/> 確認範囲	<input type="checkbox"/> 駐車措置(ギヤ入れ) <input type="checkbox"/> 駐車ブレーキ <input type="checkbox"/> 左寄せ <input type="checkbox"/> ハザード <input type="checkbox"/> 3点支持乗降	(良)・否
危険行為		<input type="checkbox"/> 歩行者保護 <input type="checkbox"/> 信号無視(黄・赤) <input type="checkbox"/> 優先車妨害 <input type="checkbox"/> 一時不停止 <input type="checkbox"/> 踏切り不停止 <input type="checkbox"/> 接触 <input type="checkbox"/> 逆行 <input type="checkbox"/> 交通弱者黙視	(良)・否

コメント 特に大きな問題点はないが、ブレーキタイミングが少し遅い 車庫で狭い場所へバック駐車する場合は一旦降りて後方に障害物が無いか確認する事が必要

以上